



# 校長の目 ～西小日々通信～

令和4年11月2日（水）



11月から読書月間の取り組みが始まったことは、昨日の「校長の目」でもお伝えしましたが、同時にスポーツの秋としてペース走の取り組みも始まりました。子供たちに学習カードが配付され、校庭1周（150m）走るごとに1マス塗れるようになっていきます。登校するとランドセルを置いて、元気よく校庭に出てくる子供が増えました。声を掛け合って走る姿はとても楽しそうです。

ランニングは、走力・持久力を高める他に様々な効果があることが報告されています。例えば、ポジティブな感情を育んだり、全身持久力と学力に正の相関性があることなどです。一方で、走ることは単調であり、辛さもあります。それを少しでも和らげるために、友達と一緒に走ることは有効です。ペース走は、いつでもどこでも、特別な道具も必要なく気軽にできる運動です。「たのしい」「気持ちいい」「かっこいい」と感じて取り組むことで長続きし、その積み重ねは生涯スポーツの礎となります。



4年生の社会科では、埼玉県についての学習を行います。内容は、地勢や自然、産業や交通、歴史や文化などです。子供たちは、「残したいもの、伝えたいもの」という単元で、主に歴史や文化に目を向けて調べ学習を行い、タブレットにまとめていました。調べた情報を簡潔に伝えるため、5W1H（いつ、どこで、だれが、なぜ、なにを、どうやって）を明らかにしてまとめるのがポイントです。すでに、情報収集は終わっているので、手元のメモを見ながら、タブレットへの入力作業を行っていました。みんな真剣です。



10時ちょうどに校内のスピーカーからあの不協和音が鳴り響きました。子供たちは、一斉に机の下に隠れます。

今日は、国の緊急地震速報訓練が行われ、全国瞬時警報システム（Jアラート）が鳴ったのでした。本校では、定期的な避難訓練とともに、子供たちには事前に知らせない不定期のショート訓練（警報が鳴った時に、即座に避難体制をとる訓練）を行っているため、警報に対する反応がとても速いのです。「チャラン」となった瞬間、体を守る行動をとれます。いざというときに自分の身を守るのは、最終的には自分自身です。日ごろから有事に対する高い意識を持ち、訓練を積むことで、迷いなく身を守る行動をとることができます。

